

八福神～8つの町（地区）と共に生きる～

本校の学校教育目標

「自分の可能性を信じ自ら学び自ら鍛える生徒の育成」

佐世保市立宮中学校 学校通信
第3号（令和3年5月26日発行）
発行責任者 熊本 直樹



今年も6月1日がやってくる～いのちの大切さを見つめ直そう～

「私たちは2004年6月1日の出来事を忘れてはならない」

その日、珍しく私は体調を崩し、当時勤務していた西海市の学校を休み臥せていました。昼過ぎに目が覚め、テレビをつけるとワイドショーが盛んに“おおくぼ小”の単語を口にしています。ヘリが上空から学校を撮っている映像が流れ、何やら大きなことが起こった雰囲気を感じられます。「どこのことだ」とのんびり思った後、それが生徒による重大事件であり、更にそれが佐世保市だとわかり、思わず跳ね起きて「職員の緊急招集はないのか」と教頭先生に電話したことを覚えています。

あれから17年、今の中学生は生まれてもおりません。事件自体は知っていても中身まではという先生たちも増えてきました。長崎県はこの事件の前年、長崎市において中学生による痛ましい事件が起き、その反省から「長崎っ子の心を見つめる」という取組を打ち出しましたが、それから1年もしないうちに起こった事件でした。

更に10年後の2014年に高校生による事件が起きたものの、2004年から本県が取り組んできた「いのちを見つめる」取組は他県にはほとんど例がないものです。2005年には全国9位までになった自殺率は、その後、減少し続け、ここ数年は40位前後となっています。

1年中“いのちの大切さ”を意識して生活している人はほとんどいないでしょう。しかし、このような日、このような取組をきっかけに、改めてその大切さを実感する。そんな日であり、そんな期間であってくれたらと願います。本校では、6月21日（月）～25日（金）を「いのちを見つめる教育週間」に設定しています。

学級弁論大会を実施しました。

全学年2時間設定で、全生徒がそれぞれのテーマで弁論発表しました。頃に最近重要視されている「表現力」の向上に一役買う活動になるのではと思います。



はちまん爺のツイート日記

※プライバシー保護の観点より、写真等の掲載については遠景のもの等を選択しております。

先日、小学校の運動会をみて、小学校1年生のしっかりさに驚いた「はちまん爺」じゃ。さて世の中は相変わらずコロナ禍の中、商売人も勤め人もみな大変な思いをしておるの。わしはここで「次の一手」という話をしたい。商売人は金銭的なリスクには敏感じゃ。いわゆるリスクマネジメントに強い。またそうでなくては本当の商売人とはいえぬ。一方、勤め人、特に公務員はそれに弱い。金銭的なリスクを背負うことがあまりないからな。しかし、リスクは金銭面だけに起こるものではない。特にこの感染症は政治・経済・教育・医療、あらゆる面でリスクをもたらした。対応が間に合わない、またはうまくいかず、崩壊寸前まで追い詰められた分野もある。大切なのは「次の一手」をどう打つかじゃろう。何かが起こって打つ手ではない。起こらないように打っておく手じゃ。そしてこの禍いが去った時、なぜそうなったか。人々はもう一度、それぞれの分野において、その仕組みやあり方を根本から考えなおす必要があるのではないかな。